

すこやか VOL.66

医療法人 藤田病院

岡山市東区西大寺上三丁目8-63

TEL (086) 943-6555 (代)

平成29年1月発行



兵庫県朝来市 竹田城跡の雲海

新年のご挨拶

藤田病院 院長 岡本康久



謹んで新年のお慶びを申し上げます。当院では職員一同、新年早々から外来および入院中の方々の診療に精励奮闘いたしております。

「門松は冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」 私事ながら還暦を迎えますと、一休宗純の狂歌に思わず共感してしまいます。戦後生まれの団塊の世代が後期高齢者となる2025年には高齢化社会がさらに進み、医療の需要と供給に不均衡が生じると警鐘が鳴らされています。地域格差も進み、岡山市では北区中心部に総合病院が集中している一方、東区は高齢者人口が多いにもかかわらず、公的病院はなく民間医療機関だけで、人口当たりの医師数、看護師数は北区の四分の一です。地域医療を守っていくためには、これまで以上に総合病院、診療所との連携を図りながら、近隣の医療機関同士が競争するのではなく、いかに協力して地域住民に対する責任を果たしていくかが問われています。

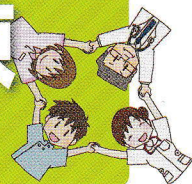
当院は消化器疾患、糖尿病を中心に診療を行っております。昨年は内視鏡センターを開設し早期診断、内視鏡治療を進めてきました。また外科医も増え様々な手術に対応できる態勢を整えてきました。開院以来、昼夜を問わず救急患者を断らないという方針を貫いております。急性期のみならず回復期リハビリにも力を入れ、開業医の先生方や介護施設との連携を深めて、退院後も自宅や施設で切れ目なく安心して生活できることを目指しております。

また、近年は日本各地で台風や地震による被害が頻発しています。気候温暖で自然災害の少ないと言われる岡山も例外ではありません。病院は地域住民の命を守る砦であり、あらゆる事態を想定して災害に対する備えをしております。

日頃皆様からお寄せいただく温かいご支援に感謝し、本年も地域医療の発展に誠実に尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

どんなところ？

回復期リハビリ病棟



10以上の専門職種が
在宅復帰をサポート

藤田病院は岡山県で回復期リハビリテーション病棟認可第1号の先駆者の病院です。

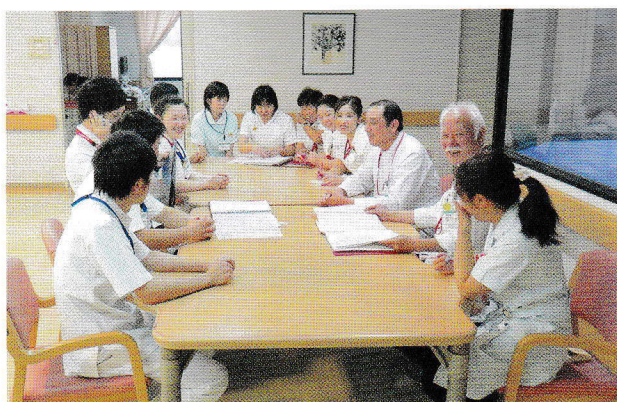
2000年に24床を開設し、現在は44床としております。開設から16年を経過しており、多くの患者さんにご利用いただいております。

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折等の病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで、集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的としています。

特徴として、①病棟への入院は病名と、病気・怪我を発症してから入院するまでの期間が決められています。また入院できる期間も期限が定

められています。

②最も重要なポイントが、チームアプローチです。患者さんにとって回復期は集中的なリハビリテーションによって機能回復が最も期待できる時期であると同時に、いろいろな不安もいっぱい抱えていらっしゃると思います。このような複雑な状況にある患者さんやご家族に対して、医師のみならず看護・介護スタッフ、理学



10以上の職種が患者さんをサポートします

療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士、義肢装具士、薬剤師など、さまざまな専門技師・知識を持った医療スタッフがチームを組んで、取り組んでいることです。

③退院先や退院の時期を決めるにあたっては、主治医を中心に『カンファレンス』という会議を定期的に開催し、患者さんの回復状況を確認し退院を見通した訓練などに取り組んでいます。

日常の中で「起きる、食べる、歩く、トイレに行く、お風呂に入る」などへの関わりの中で、患者さんの「笑顔」が私達スタッフの一番の支えとなっています。少しでも多くの「笑顔」に出合えるよう、これから患者さんに寄り添っていきたいと思っています。（看護副部長 永井）

病棟師長からのごあいさつ

病棟管理者の小林です。回復期リハビリ病棟では、患者さん一人ひとりのライフスタイルやニーズに応じた療養生活が送れるように、ご家族リハビリスタッフ、医療相談室などと連携をとり、退院後の生活についても支援しています。



接遇キャンペーンを実施中です

昨年10月から職員の胸に黄色いバッジが付けられていることにお気づきでしょうか？ バッジには「笑顔・あいさつ・思いやり」という言葉が書かれています。これは患者さんに対してはもちろんのこと、職員間でも常に心がけたい目当てとして、接遇意識向上のために掲げています。

患者さんの命と健康をお預かりする仕事柄、真剣さが高じてつい必要以上に険しい顔になっていることも…。そんな時には「バッジにいいこと書いてあるね！」と声をかけてください。（業務改善委員会）

毎日のケアの中で患者さんと一緒に回復を実感し、笑顔で退院されていく姿を見られることが、大きなやりがい입니다。
和気あいあいとした、家族的な雰囲気、これからも患者さんに信頼され、メンバー全員が笑顔で明るい病棟づくりを心がけていきます。